

第4回県立国際高等学校検討協議会 議事概要

日時：平成31年4月25日（木）10:00～11:30

場所：教育委員室 奈良県庁東棟2階（奈良市登大路町）

出席：吉田会長、大西委員、竹本委員、前田委員、佐田委員（代理：鉤副支社長）
吉岡委員、西上委員、大石委員、香河委員、熊谷委員

協議事項

（1）県立国際高等学校検討協議会設置要項について

- ・課の名称変更と委員名簿の更新にかかる設置要項の改正について説明
- ・今後の進め方について提案

【協議結果】

- ・今後、国際高等学校の設置準備に関することについては、（仮称）開校準備委員会で検討し、管理者による決裁の上、協議会に報告する。

（2）国際高等学校の教育内容について・・・概要（素案）P4～8

【主な意見】

《第二外国語について》

- ・第二外国語については、到達目標を設定することが大切である。
- ・第二外国語は、検定教科書がないのであれば、教材づくりが大変なのではないか。
- ・大学で使用する第二外国語のテキストを使用することも考えられる。
- ・ドイツ語は、フランス語やスペイン語と異なり、圧倒的に母語話者が使用している言語である。高取国際高校でも長年開講していないが必要なのか。
- ・説明会では、保護者からのニーズはあった。実用的ではないかもしれないが哲学ブームでヨーロッパの思考体系の中ではドイツ語もある。
- ・有識者意見聴取では、今後EUの中での役割などからドイツ語は必要という意見をいただいた。
- ・ドイツ語は、インターネット上で使用されている言語の中で上位であることも根拠となる。
- ・東南アジアの言語も、奈良県で在住している外国人数という観点からは候補となる。

《教育課程全般について》

- ・1年生の英語は4単位では少ないのでは。実際には、グローバル探究（週3時間）の中で2単位程度は英語で学ぶので実質6単位であるとしても、見え方として少なく見えないか。
- ・グローバル探究の中身を明確にしてから検討していく必要がある。

- ・第二外国語の教科名は、学習指導要領上は外国語になるのではないか。
- ・英語ディスカッションと英語ディベートは、新指導要領にあわせて「ディベート・ディスカッション」という科目にするほうがよいのではないか。
- ・国際科の専門単位である25単位をどのように構成するのか、整理する必要がある。第二外国語は普通教科として扱っても、英語とグローバル探究で25単位をクリアできるのではないか。
- ・東京都に新しく設置される国際高校では、専門英語、専門理数とリベラルアーツ国際という3つの教科を置いている。
- ・これからの時代を踏まえて、専門教科「情報」を取り入れることができないか検討してもらいたい。
- ・留学を目指す生徒の進学形態はどのようなものを想定しているのか。また、指導はどのように考えているのか。
- ・進学形態としては、3年間で力をつけて直接大学へ入学できる生徒を育てたい。ただ、コミュニティカレッジ経由など様々なルートがあるので、「国際教養」などの時間を利用して、個々に応じた指導をしていきたい。

【協議結果】

- ・教育課程について、意見を踏まえ、事務局で整理する。

(3) 国際高等学校のグランドデザイン案、学校生活について

・・・概要(素案) P2、3、9

【主な意見】

- ・グランドデザインの「将来」については、大学進学だけでなく、その後の職業等についても入れたほうがよいのではないか。
- ・ネイティブ教員の授業が英語なのか他教科なのかわかりにくい。
- ・グランドデザインの教育内容の中に生徒の活動と教育内容が混在している。
- ・「学び」「探究」「グローバル」「ICT」という分類の仕方はこれでよいのか。

【協議結果】

- ・グランドデザインについて、意見を踏まえ、事務局で検討する。

報告事項

(1) 学校説明会、国際高校リーフレットについて

- ・今後の予定を事務局より報告

(2) その他

- ・次の協議会の開催について
 今後は2か月に一度のペースで開催する。